

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>今までの理念を見直し、家庭的な雰囲気と地域とのかかわりの中で暮らしていけるような支援を理念としてあげた。</p>	<p>これからも職員全員で、地域密着型サービスとしての理念を確認し、利用者がその人らしく生活していけるよう支援して行きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>グループホーム会議の時など確認し合ったり、話し合いの中で理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	<p>理念の意味を理解し、日々の生活の中で取り組んで行きたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族の方はもちろんの事、地域の方にもホーム便りを回覧し理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族や地域の方に理解していただけるようホーム便り等続けて行きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの場所が集落から離れている事もありなかなか日常的な付き合いは難しいが、買い物に出かけたり、美容院に行ったり、行事の時など集落の公会堂を借りて、集落の方々の参加を呼びかけている。</p>	<p>ボランティアに来てくれている方が、ボランティア以外にもホームに立ち寄ったり、お茶を飲みに来られている。このような関係もこれからも大事にして行きたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>村の文化祭や学校の文化祭等に参加している。また、ボランティアに来てくれる方等、気軽にお茶を飲み立ち寄りとしてくれている。</p>	<p>これからも、地域の中で参加していけるよう、職員一同で話し合い取り組んで行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受入れや体験学生等の受入れは行っているが地域の高齢者の暮らしに活かす活動は行っていない。		職員、運営会議のメンバーとも話し合いできる事を行って行きたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行いサービスの質の向上に努めている。また、改善点等は、会議の中で検討し前向きに取り組んでいくよう努力している。		自己評価、外部評価の中で今まで気付かなかったことを、見直してサービスに生かして行きたいと思う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームからの報告と共に参加メンバーから質問、意見等を受け、取り上げられた検討事項についてその過程を話し合い取り組みを報告し意見をもらっている。		これからも皆さんの意見、アドバイスをもらいサービスの向上にいかしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	用事のある時は連絡したり、隣設の特養に来られた時など、顔を出してくれる事があるが、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいるとまではいかない。		市町村から今後ホームの避難訓練の時教えてほしい。もっとグループホームの事を知るべきなのだが、と話しがあった。今後もサービスの質の向上の為かわりを持って行きたいと思う。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度に関する研修会に参加した。参加した職員から研修内容について発表してもらい理解を深めた。		今現在成年後見人制度を必要としている方はいないが、今後必要とする方には、これらを活用できるよう支援したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連法について、目を通している。又、利用者の外泊時や、事業所内での虐待がない様、注意を払っている。		職員は、虐待は起きてはならない事を、十分理解している。これからも、虐待が見過ごされる事のない様、注意を払って防止に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分家族に説明を行っている。又、家族から、疑問点等があった時は、その都度説明を行い、対応している。</p>	<p>契約には、重要時事項の説明とともに、ご家族の方の協力を得たい所など、十分に話し合い、理解していただけるようにしていきたいと思う。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の訴えや様子から、その思いを察し、職員で話し合いを行っている。</p>	<p>これからも、日頃の様子から、嫌がる事、好む事等を察し、日々のケアに活かしていきたいと思う。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回広報紙を発行し、利用者の暮らしぶりやホームの状況などについて家庭等に報告している。又、家族の面会の際にも、日頃の様子等を報告している。</p>	<p>ご家族の方の面会時には、日頃の様子等を話したり、利用者の小遣いの領収書の確認をしていただいたりしているが、これからも、続けて行っていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が、意見、苦情を言い易い様に問いかけたり、窓口に、連絡先の電話番号を記している。</p>	<p>契約の際に、苦情申し立て機関を説明したり、家族からの意見等を聴き、運営に活かしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ホーム会議の中で、意見交換を行い、毎日の業務の中でも、話を出してもらったりしている。</p>	<p>職員からの意見を取り上げ、スタッフで取り上げ、サービスの向上に取り組んでいきたいと思う。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時々状況に合わせ、勤務の調整を行い、柔軟に対応している。</p>	<p>その時の状況に対応できるように、勤務の調整を行って行きたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はあるが、利用者へのダメージを防ぐ為に、引継ぎを十分に行うとともに利用者にもよく説明している。</p>	<p>異動はつきものだが、利用者へのダメージを防ぐ為に、引継ぎを行い、スムーズに行えるよう努力して行きたい。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>緊急時の対応、食事、入浴、排泄等のマニュアルを整備されている。職員が、いつでも見る事ができる様、ファイルに綴ってある。</p>	<p>これからも、問題があった時等、職員と話し合い、マニュアルの見直しも行き、緊急時に対応できるよう、行って行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	同法人内の研修、又は、特養と一緒に園内研修や、他の研修に参加した職員の発表を、行っている。	今までも特養と一緒に、外部からの講師を招いて、研修を行ったりしていましたが、これからも可能な限り、研修に参加して行きたいと思います。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域のグループホーム(同法人、他法人)と交流会を行っている。その中で、日頃の仕事の悩みや、他での活動等を聞いたり、行っている。	他のグループホームとの交流を図り、日々のサービスの質の向上の為、努力して行きたいと思う。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	隣接の職員との親善の場もあり、気分転換を図れる機会がある。又、他のグループホームとの親善も行っており、ストレスの悩み事等を話したりしている。	これからも、個々のストレス軽減に、取り組んでほしい。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	隣接の特養さつき園園長もほとんど毎日現場に来ており、また、ホームの行事等に参加してくれたり職員勤務状況や努力を把握している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談があると事前面接を行い、本人が何を望み、何が不安なのかを良く話し合いながら、見極め、安心感を持って頂ける様、努力している。	本人が安心してホームに行きたいと感じてもらえる様、話し合いの場をなるべく多く持ちたい。又、ホームへの訪問も、促して行きたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面接や、ホームへ見学に来て頂く事によって、家族が求めている事、不安な事を話し合う機会を作り、受け止めるよう努力している。	家族が安心してホームに入所させたいと思えるように、話し合う機会を多くするよう考えて行きたい。ホームの見学も気軽に来られる様、配慮したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族との関係を把握しつつ、双方が望んでいる事を理解しながら、ホームの状況を話し、又、他のサービス利用も説明し希望に添えるようにしている。		本人と家族が本当にホームでの生活を望んでいるのか、又、どの様に生活して行きたいのか、他のサービスも含め、理解できるようにして行きたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接だけでなく、本人、家族共、気楽にホームへ見学に来て頂いたり、他の利用者とも、コミュニケーションを取っていただけるようにしている。又、入所後も密に状況を連絡し、安心して頂ける様、努力している。		ホームに馴染めるよう家族と相談し、時には、外泊をされたり、本人が希望するのであれば、ご家族の方に、ホームに泊まりに来て頂いたり、安心感を持ってもらえるようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴から、四季折々の行事や食事作りの知恵、また、畑や花作りなど得意分野で教えてもらい共に作業を行っている。		日々の生活の中で、又は、地域のならわしで、お互いに教えたり、聞いたり行い学んでいく関係を続けて行きたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の面会時やホームの行事の時など家族の方と話し合う機会を設けて、入居者の方、又、家族の方の様子を互いに理解しようと努めている。		これからも家族と交流できる機会を増やして行きたい。その為に本人の状況の連絡を密にするよう努力して行きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の状況を連絡したり、衣替えのお願い等を通して面会や外出、外泊による家族との交流を図っている。		家族の状況を理解しながら、本人と家族の交流の必要性を分かって頂けるよう努力して行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が望めば、友達や家族等に電話をかけることができる。		今後は、可能な範囲で今までの関係が途切れないよう考えて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人達で、お互いの居室を訪問したりする事を支援したり、利用者間の話の場を盛り上げたり配慮を行っている。		他の利用者に対し必要以上に世話をしたがる方がいるので、その人に合ったペースがある事を分かって頂けるよう努力して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も本人に面会したり家族からの相談にも応じられるようにしている。		継続的な関わりを必要とされるならば、可能な範囲で利用者、家族の方と交流を図り今後の参考にして行きたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン見直し毎(3ヶ月1回)に利用者とゆっくり話しをする場を持ち、思い、意向、悩み等伺っている。また、その場では上手く表現、話される事が出来なくても、生活歴や日頃の暮らしの中(動作、会話等)から真の思い、希望、意向をくみ取りその人らしい暮らしに努めている。また、困難、無理と決め付ける事のない様に職員間で話し合いを行っている。		今以上に利用者と話しをする場や職員間の話し合いの場を増やし、その人らしい暮らしとなるよう取り組んで行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に特に情報の把握はもちろんの事、日々の暮らしの中で利用者の動作、会話から得られる情報、又、家族、親戚、友人との信頼関係から、より利用者の新しい情報を得、これまでの人生、暮らし方を把握している。		利用者の長い人生について把握するために、今後も取り組みを継続して行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の暮らし、心身状態、有する力を総合的に把握するよう努力する。又、職員一人だけの把握では利用者の部分的な情報の把握に陥りやすい為、常に職員間で話し合いを行っている。		利用者の移り行く状況や、残されている可能性を、職員間の話合で行って行きたい。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成においては、利用者、家族の意向の聞き取り、日々の暮らしの中から得られる情報。家族面会時、利用者について連絡、話し合いの場を持ち、職員間の話し合いを含め利用者がより良く暮らせる為の課題ケアのあり方を導き出し介護計画を作成している。		介護する側にとっての課題に陥ることなく作成して行きたい。又、今以上に家族の方へは、介護計画作成に利用者、職員と共に取り組みが出来よう働きかけを行って行きたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の設定期間毎に、また、設定期間内であっても利用者の状況が変化し、現状の介護計画内容が、対応困難となった場合はその都度利用者、家族の意向の聴き取り、職員間の話し合いの場を持ち、新たな介護計画を作成し本人のよりよい暮らしへ取り組んでいる。		安定している利用者の方は現在3ヶ月に1回の見直しを行っている。今後は月に1回利用者、家族の意向や状況の確認、職員間の話し合いを持ち予防的対応を含めた介護計画の確認に取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況、家族からの話し、関係機関からの連絡、介護計画の評価等、利用者に関わる事について、個別に記録している。職員は記録を情報として共有、ケアや介護計画に活かしている。		今後も記録においては、やった事を記録にするだけでなく利用者の行動、表情、話した内容、ケアの気づき等、生きている記録を残すよう取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の日々変化する状況や、重度化して行く状況、又、利用者の家族の要望に対して、日頃よりコミュニケーションを持ち、又、状況の変化を見落とさないようにし、必要な支援を臨機応変、かつ柔軟に提供している。職員は、利用者、家族にとって、安心して暮らし続けて行く為の、良きパートナーとして接している。		看護師の職員がいない為に、医療に対して弱い面がある。今後、利用者家族にとって、より安心して暮らし続けて行く為にも、医療の向上に努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月2回、歌、紙芝居、話し術にて、利用者の心を元気にして下さる、ボランティアが来ます。又、地域の方が、ホームの畑の手入れの手助けをして下さる事で、利用者が楽しんで野菜の収穫をしたり、季節の野菜の寄付があり、その際は、野菜の下処理を、利用者が一生懸命したりと、利用者の心身の能力を引き出し、豊かな暮らしを支援している。		今後は、よりボランティア、地域の受入れをし、又、利用者、職員が地域に出向き、協力し合い、今以上の豊かな暮らしに取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向や必要に応じて、地域の方と野菜収穫等で、ふれあいの場を持ち、心の支援を行っています。又、医療については、近くの特養看護師に、助言、協力を頂き対応している。		今後は、自己の事業所だけで抱え込まないよう、市長村、地域ケアマネジャー、他、サービス事業者と話し合い、助言の場を増やし、利用者のより良い支援に努めたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に、地域包括支援センター職員と会議の場を持ち、利用者支援について話し合い、助言を行っている。		地域包括センター職員との話し合いの場を、今以上に持ち、一歩踏み込んだ、利用者個々の総合的なケアマネジメントに、取り組んでいきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者、家族が希望する医師に依頼。定期受診は家族の方をお願いしている。又、日頃利用者の健康面で心配事がある場合は、かかりつけ医師へ電話し、助言を頂いたりしています。その際は、必ず、家族へ状況の連絡をします。緊急時は、職員が適切に判断し、かかりつけ医、又は、医療機関の受診を行い、家族への連絡も行っている。		病院がかかりつけ医である場合、中々話し合いや、助言の場を持つ事が出来ない為、家族へ連絡し、受診時、助言や情報提供をお願いしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在認知症と診断されていますが、日常生活上困難を極める状況の方はおらず、かかりつけ医師の診断、治療、助言で支援を行っている。		今後は、認知症の専門である医師との日頃からの話し合いや、助言を持てる場をつくれるよう、取り組んでいきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近くにある特養看護師が、定期的に訪問し、利用者個々の健康状態や助言を行っている。又、利用者の健康で心配事がある時は、その都度看護師へ相談、助言を、時に訪問して下さり、状態の確認をしてくれる。看護師からの感染予防等についての助言、指導も行っている。		今後も、今以上に看護師と協力し、利用者の健康管理や、医療的支援に努めていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時には、スムーズな退院に向けて、病院関係者(ケースワーカー)より、情報提供や、家族を含めて、今後の事について相談している。		中々、ホーム側の意向が、医療機関側に伝わりにくい面があったりする。家族から、主治医に相談して頂いたりしている。又、主治医看護師と直接、情報交換、相談は難しく、ケースワーカーを介した状況となっている。特に日頃から、主治医と直接話せる場が持て、より、医療機関と密に連携できる関係に努めていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、早い段階から本人・家族と話し合い、又出来るだけ繰り返し家族へ意向について、聴き取り、方針を共有している。		かかりつけ医も含めた話し合いは困難であり、ホームへ往診があった際、助言を頂いたりしている状況である。全員での話し合いの場を持つ事は難しく、かかりつけ医については、電話やホーム側から出向いて話しを伺ったりし、今後の利用者のあり方について相談して行きたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合は、本人・家族に意向や相談をし、又、職員内でカンファレンスを開催し、利用者に対して、より良く暮らす為の話し合いを行い、家族を含めたチームで協力支援している。		チーム内にかかりつけ医が直接入る事は難しく、家族からかかりつけ医へ話しをして頂き、それをチームで共有取り入れ支援して行きたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からホームへの場合は、事前に本人・家族に関わる情報を得、十分に話し合い、本人・家族へはホームへ来て頂き生活状況を見学して頂いている。又、ホームから他施設の場合は、本人・家族に関わる情報を提供、話し合い、施設事業者にはホームへ訪問して頂き、本人の状況を直接見て頂いたりしている。		自宅からホームの場合は、よりダメージが大きいと思われる為、ホーム職員が何回か自宅へ訪問したり、又、数回ホーム生活を見学・体験出来るよう取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けや対応は丁寧に行うことを心掛け、記録等の個人情報の取り扱いは、当法人の規程に添って、きちんと取り扱っている。</p>	<p>今後もより丁寧な言葉掛けや対応をし、個人情報の取り扱いも現状の対応を継続していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者自身の思いや希望を直接伺ったり、十分意思表示が出来ない場合は表情や常日頃からの会話の内容や行動から感じ取り、又、自身で考え決定する機会を常日頃より働き掛け、納得の上で暮らす事が出来るよ支援している。</p>	<p>今後もより思いや希望に対して自ら表せれるよう、自己の決定の上で生活が送れるよう努めて行きたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者自身の希望や思いを取り入れ本人が主体とした自由な暮らしに努めます。</p>	<p>一人ひとりの利用者の生活リズム・ペ支援して行きたい。出来なかった場合はその都度改善出来るよう職員間で話し合い努めて行く。</p>
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>地域の美容室に行き本人の希望によりカット、毛染め、パーマと行っている。美容室まで行くのが困難な利用者には美容室の方に来て頂いている。また、家族の方がなじみの店に連れて行ってくれている方もいる。</p>	<p>利用者の方は皆さん満足されている様ですが、これからも皆さんの希望を聞き対応していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の野菜を皆さんで収穫し一緒に料理して食べ、後片付けも皆さんで行っている。食事と言う一連の作業を通して一人ひとりが楽しんで参加されている。</p>	<p>一人ひとりの好みや力をより活かせるようこれからも努力したい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人からの希望があればその都度対応するが現在特に希望される方はいない。</p>	<p>本人からの希望があれば出来る限り対応して行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけオムツを使わないようにしている。その人一人ひとりの排泄パターンをつかみトイレ誘導を行ったりとしている。		これからも気持ちよく排泄できるよう日々の観察をしっかりと行い支援して行きたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声をかけて拒否があれば無理には進めていない。勤務体制の都合上入浴は午後からとなっているが、可能な限り本人の希望を取り入れている。		本人の希望に合わせて入浴できるよう支援して行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調不良等が見受けられたり、訴えがあった場合はすぐに休めるよう支援している。また、いつでも自由に好きな所で休んでいる方もいられる。就寝時間はその人それぞれ好きな時間に休んでいられる。		これからも職員は、体調不良等を早期に発見し、速やかに気持ちよく休息できるよう支援して行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事作業や畑仕事等、自分の役割と思い楽しんでされている。晴れの日には、希望があれば付き添って散歩に行くなど気晴らしの支援をしている。		これからも希望はないか、気晴らし出来る方法はないか考え利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせる様支援したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望でお金は職員が管理しているが、本人の物を買物に行った時など支払いを自分で出来るよう支援している。		お金の所持、使用の希望がある時は対応していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事や散歩、買い物等外に出かける機会が多いと思われる。あまり出たがらない方もいるが、全員でバスハイクに行く事もあり外へ出かけられるよう支援している。		利用者の希望に添って外出できるよう支援して行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人からの希望があった時など、ご家族の方に相談し協力を得ている。		家族の方にも協力を得、普段いけない所等出かけられる機会をつくるよう支援して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、本人からの希望があれば職員と一緒にでんわをかけたり行っている。		手紙のやり取りを行っている利用者の方はいないが希望があれば支援して行きたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問でき居心地よく過ごせる環境は出来ていると思われる。訪問、面会は多い方だと思われる。		これからも、いろいろな方が気軽に訪問できるよう工夫して行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に目配り、気配りをしながら身体拘束をしない為にも利用者の訴えを良く聞き話し相手となっている。		何か問題が起きた時など、身体拘束をしないケアを行う為職員や家族等と共に相談、話し合いをして取り組んで生きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強いからと鍵をかけることもなく、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		これからも鍵をかけないケアに取り組む為、利用者の話しをよく聞き、職員が付き添う等対応して行きたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は皆さんで何かをして過ごす事が多い。そこに参加していない方の所在や様子も確認している。夜間は、定期的に巡回し安全に配慮している。		これからもプライバシーに配慮しながら利用者の所在や様子を把握し安全に配慮したい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬等は職員が管理しているが、包丁や洗剤は所定の場所にあり注意を払っている。		これからも注意の必要な物をただなくすのではなく、工夫して危険を防ぐようにしたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災に関してはマニュアルもあり年2回訓練も行っている。他にも知識を学び実際にその場面に遭遇した場合に対応できるようマニュアルも用意している。		年2回の避難訓練と、マニュアルでより知識を増やし、事故防止に取り組めるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないが、応急手当や、救急法の講習は全員受けている。夜間の緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底している。		講習会や研修があれば積極的に参加し技術を高めて行きたい。定期的に緊急時のマニュアルを確認して行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っており避難方法は身につけている。地域の人々に協力を得られるよう働きかけもしている。		地域の人々も避難訓練に参加できるよう勧めている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	常に多動で転倒のおそれのある方や体調不良の方等の危険性がある方は家族に説明し抑圧感がない様に見守り強化するなど話し合っている。		リスクについて家族ともよく話し合いを行い、職員間でも積極的に話し合い対応策を出して行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に一人ひとりの体調の変化や異変はないか観察し、早期発見に努めている。体調の変化や異常があった時、報告し合い早期に対応できるようにしている。		小さな変化、異変も記録し、報告し合って行きたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の副作用、用法、用量が書かれた用紙を閉じ、どんな薬を服用しているか分かるようにしている。飲み忘れや誤薬を防ぐ為、職員同士確認し合っている。		身体の変化があった時は、家族、医師に相談し服薬の調整、変更の参考となるよう細かく記載し報告して行きたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者には毎夕食時、お茶の代わりに漢方薬(センナ茶)を飲んで頂いている。身体を動かす働きかけ(散歩、掃除等)も行っている。		継続的に一人ひとりの排便の状態を観察し便秘を予防して行きたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい、歯磨き等一人ひとりの口腔状態に応じた支援をしている。		口腔状態の観察をしながら、清潔保持に努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーはだいたい把握している。(5月までカロリー計算を行っていた)月末に隣接の特養の管理栄養士に献立を見てもらい助言をもらっている。		引き続き栄養バランス、水分量カロリーの過不足に注意した献立を作成し一人ひとりに合った栄養バランス、水分量を考えて行きたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し実行している。研修会に参加し感染症について学べる機会がある。特養の看護師からも時期になると指示がある。		保健所や他の事業所と連絡を密にし流行や対応策についての情報交換をして行きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板、布巾、台布巾、生ゴミいれを消毒しており衛生管理の方法も決めている。裏の畑で野菜を収穫し新鮮な野菜を使用している。		新鮮で安全な野菜を使用できるようこまめに、野菜等をチェックして行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花壇があり季節の花を植え、出入りしやすいよう工夫している。		利用者や家族地域の方の感想や意見をもっと聞き参考にして行きたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日差し、不快な音がしないよう配慮している。居室前や台所の壁に担当職員が季節に合った飾りつけを行い、居心地よく過ごせる様工夫している。		利用者、家族、外来者の感想や気づきを聴き、より居心地良い空間作りを行って行きたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が自室前のベンチや気の合う仲間とお茶を飲んだりお話されたり過ごされている。		リビングの畳コーナーをもっと利用してもらええるよう工夫して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ居心地良く過ごせる様にしている。		今後もその人らしく落ち着いて過ごせる居室作りに取り組んでいきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日1回は換気を行って入る。その他気になる臭い、空気のよどみがある時はその都度換気に努めている。利用者一人ひとりの体調や様子を見ながら温度調整を行っている。		外気温と大きな差にならない様に配慮して行きたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレに手すりが設置されていたりトイレの便座も低く設置されている。食事の椅子が低い人には、椅子の高さを調整している。		一人ひとりの身体の状態に合わせ自立した生活が送れる様工夫して行きたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの居室の前には表札があり、トイレや浴室には目印を付け混乱のないように工夫している。夜間は常夜灯をつけている。		混乱や不安になるような物品がある時は、検討して行きたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には花壇が植えられており庭に畑を作り、水やり、草取り、野菜の収穫を楽しんでされている。ベランダに収穫した野菜を置き利用者が見て楽しめるようにしている。		すぐに日光浴ができる様玄関先に椅子を置きたいと考えている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの周辺は松林であり、たらの芽やわらびなど山菜が出ており、利用者の方と散歩がてら山菜を採って食材に利用したりと環境に恵まれています。地域のならわしを大切にし春の節句にはよもぎ摘み、笹取りと行い笹団子やちまきを作ったりしています。小正月には団子の木を作って飾ったりと職員と利用者の方で互いに教えたり教え合ったりと楽しみながら行っています。裏の畑にはボランティアさんの協力で野菜を作っており野菜の収穫の喜びと取りたて野菜を食しています。自然に触れゆったりとした日々を過ごしています。